

海域の概要

本湖は、北海道北西部の湖で、オホーツク海に面している汽水湖です。この湖では、年間70～180種の野鳥が観察されます。湖内では、カキやアサリなどの養殖が行われています。

Specification諸元

湾口幅：0 0 1 5 km

面積：5.8 1 k<sup>m</sup><sup>2</sup>

湾内最大水深：3.8 m

湾口最大水深：3 m

閉鎖度指標：2 0 3 5 4

備考：なし

Location範囲または位置

北海道紋別市。



## 環境

コムケ湖は、紋別市東部のオホーツク海沿いにあり、海とは狭い沿岸砂州で隔てられています。この湖は、海側は直線的ですが、背後には入り組んだ複雑な湖岸線を示し、南側は10m程度の丘陵地の海跡湖です。

オンネコムケナイ川、秋平川などが流入しており、流出口は海と通じています。

集水域の土地利用状況は、山林 畑地と湿原で、年平均気温 $1.1^{\circ}\text{C}$ 、年平均降水量 $636\text{mm}$ の冬季湿润寒冷型気候に属します。夏季には、海霧が発生し、大雨の降ることもあります。冬春季には流水の影響で気温は日本国内でも大変低くなりますが、比較的日照率が大きいのが特徴です。

昭和52年度から、浅海漁場開発事業が始まり、永久湖口の確保と湖内漁場環境整備の進行により、海水との交換も徐々に行われており、湖内環境は次第に変化しつつあります。

## 自然

コムケ湖は、春はハクチョウ、夏はアオサギなど多くの野鳥が訪れ、秋はサングラサングラ草が赤く色づくなど四季折々の景色が楽しめます。

また、コムケ野生花園は、オホーツク海沿岸のコムケ湖に隣接し、オホーツク海岸特有の海浜植物と高山植物を併せて観察することができる複合的植物地帯となっています。



サングラ草

## 文化歴史

コムケ湖の語源は、北端にくびれたところがあり、沼がそこから曲がって砂丘の裏側に通っている形からコムケ・ト(曲がっている・沼)と呼ばれました。

紋別市は、流水をテーマとした街づくりを進めており、海底からオホーツク海を観察できる氷海展望塔「オホーツクタワー」や流水原を巨大ドリルで砕いて進む流水砕氷観光船ガリンコ号Ⅱ、真夏でもマイナス $20^{\circ}\text{C}$ の厳寒体験ができる北海道立流水科学センターなどがあります。

平成11年には、新紋別空港も開港となり、東京との直接のアクセスが可能となりました。

## 産業

自然の宝庫であるコムケ湖では、浅海漁場利用事業が進められ、カキ貝の養殖が脚光を浴びています。

また、世界三大漁場の一つとして知られているオホーツク海に面し、自然の良港を有するという天与の条件を最大限に生かして、紋別の漁業は早くから基幹産業として発展してきました。重要港湾として外国貨物船も出入りする紋別港は、盛漁期には300隻を超える漁船の出入りで賑わい、沖合ではカマボコの原料となるスケトウダラ漁、沿岸では紋別ガレイ」として名高いカレイや毛ガニ、サ



紋別港の漁船団

ケ・マスなどの漁業が活発に営まれてきました。近年は、国際的な漁業規制の強化と定着、近海での漁獲資源の減少など、厳しさを増す漁業環境を踏まえて「育てる漁業」への積極的な取り組みが図られ、ホタテやサケ マスの資源が安定し、なかでも、ホタテは我が国でも有数の生産地として知られており、品質の良さと相まって日本各地に届けられ、まさに紋別漁業を代表する水産物です。